

第1回特別職報酬等審議会議事録

日 時：令和6年10月3日（木）午前9時00分～午前11時16分

場 所：町民生活センター2階 集会室

出席者：委員7名、事務局5名

欠席者：1名

- 1 町長挨拶
- 2 自己紹介
- 3 会長選出
- 4 諮問
- 5 審議、意見交換

発言者	内容
事務局	本日欠席の委員の意見を紹介します。 「基本的に町議会議員報酬の引き上げに賛成するが、昇給率に関しては以下を考慮していただければ幸い。町議会議員の中でダブルワークをしている人も多数いるかと思うが、議員の皆様の業務拘束時間は、行政一般職の皆様と比較してどの程度か。遜色ない程度であれば、改正案の引き上げ率に賛成する。」 これについては、森町役場の職員の出勤日数は243日で、議員の公務日数については、令和4年の実績で44日、政務は36日、これ以外に議員それぞれの活動があるといった形です。 次の意見として、「町の財政状況について、町の地方債が平成28年から令和5年まで87億円前後となっており、今後人口減少などの要因により楽観視ができない状況だと思う。今回の引き上げにより、将来的に住民税増税に繋がるのではと危惧される。その場合、町民の理解は得られるのか。また、全国の類似団体や人口1万7000人規模の平均値との比較がされているが、それらの団体の財政状況はどうなっているのか。町民感覚からすると、87億円前後の負債は、将来的に若い世代にネガティブな印象を残すのではないか。」 これについては、他団体の財政状況を個別に精査することは難しいため、森町について申し上げます。地方債のうちの臨時財政対策債は、国が地方公共団体に交付する地方交付税の財源不足に対処するために、その一部を地方公共団体で借金をして賄っているものです。地方交付税の振替として発行されているため、後年度地方交付税で措置される実質的な地方交付税となります。この臨時財政対策債を除く地方債は、直近ではおよそ50億円程度となっており、この増加の要因については、近年の災害予防や災害対策事業によるもので、地方交付税で財源措置をされる起債を主としているため、今回の議員報酬の引き上げが、住民税の増税に直接繋がるとは考えておりません。それから議員報酬については、一般会計の人件費全体の2.9%相当であるため、今回の増額による影響は軽微ではないかと考えています。

		もう一つの意見として、「今年の大企業の平均昇給率は 3.6%程度と理解しているが、その引き上げ率と比較すると、改正案の引き上げ率はかなり高いと思う。」 これについては、町議会議員の引き上げについては、平成 17 年以来となっています。大企業の昇給率が 3.6%となっておりますが、これは 1 年間の数字であるため、仮に令和 7 年に議員報酬を改定するとすると、20 年ぶりの改正となります。統計資料によると、その間に継続して企業の賃上げが行われていたことを考慮すると、議員 18.7%という今回の増額案は、20 で割ると 1 年辺り 0.94%となります。こちらの計算をすると、必ずしも高いとはいき切れないのではないかと考えています。
	委員	今回の引き上げについては、基本的には賛成。ただ、個人的にはもっと上げてもいいかと思う。今の議員さんはほぼダブルワーク前提であり、若い人はなかなか議員になろうという気にならないのではないかと。若い人たちが議員になろうとすると、今勤めているところを辞めて議員になるという形になるので、一般論からすると通常の勤労者の平均年収くらいを一つベースに考えてみていいのでは。例えば 30 代の平均年収が 447 万円、40 代の平均年収が 511 万円、50 代が 607 万円なので、今回の改正案で上げていただいても、30 代にも届かないところになると、大体 27 歳くらいの平均年収であると。それだと議員になって、住宅ローンを払いながら子育てもすると考えると、やはり苦しいのかなと思う。 今回の資料の中でも、若い世代に議員になってほしいという切なる願いが込められていると感じたが、すごく思うのは、森町の若い人たちは町のことをすごく考えていて、町の将来を自分事のように捉えている方がすごく多いと思う。そういう方たちが議員になって、町政にいろんな年代の意見を代表して言ってもらえるような議会になってもらうというのが、我々としては一つの思い、願いだと思う。若い人たちが参加できるような、所得の面でしっかりと議員だけでやっていける、生活ができるというところを、まず一つのベースとして考えるのはどうかというのが、率直な意見としてある。
	委員	選挙を経験して、議員になる。議員になると、家族も色んな意味で抑制、プレッシャー、ストレスがある。そういう意味では、大変な職業である。ただ、一般に言われる名誉職でもあるし、町をある程度司る手助けをできるという点では、やりがいという点では金銭にかえられないこともある。 報酬と言うことでとても大切な審議会であるので、ものすごく上げたいという気持ちは最初からあった。ただ、現在人数は 12 人だが、どうなのかと。近隣市町でそれぞれ事情があるから一概には言えないと思うが、例えば御前崎市は 12 名である。そこからしてみても少し減らせないかと、ある程度減らせるなという感覚を持った。 結論としては改正案のままでいいし、もし可能ならそれにプラスアルファで上乘せしてもいいと思う。ただし、人数を減らすことが前提条件で、12 人を最低でも 10 人にして 2 人減らすのは最低条件で、できればもっと減らしてもらいたい。商工業者は、現在は一部の人以外はかなり厳しく、賃上げどころじゃない方も居る。また、一線から退いた方々の理解を得るには、賃上げだけじゃ良い印象は得られないと思う。

		そうではなく、何名か減らして少数精鋭でやるんだと。人数を減らすから、その分報酬をあげて充実した形にしたいという表れであれば、ある程度説得もできると思う。人数を減らさないなら、あまり昇給には賛成できない。そのぐらい厳しく思っている。 それと議員さんの年齢について、女性が二人いて男性が多いが、年齢的には高いと思う。年齢構成はどうか。60 歳以下は何人か。
議会事務局長		現在は、60 歳以下が二人です。
	委員	今、様々な賃上げのムードがあり、推し進めることは良いが、最近の賃上げは若手に厚く、中間層はかえって冷遇されているようにも見受けられる。その辺りも加味することも必要であるし、一番の問題は町民の理解であり、それには定数を減らして大幅にあげるのが良いのでは。個人的にはそのように思っているので、その辺りを議論願いたい。
	会長	今、定数について話が出たが、議会で特別委員会を開いた中で定数について協議した経緯はあるか。
議会事務局長		昨年の 9 月から 3 月において、特別委員会が開かれて協議がされました。その中で定数については、定数を減らして議員報酬を上げるという考え方もあるが、定数と報酬は別に考えるべきではないかという意見が出ていました。現状の 12 名とする結論が出ていますが、理由としては、森町は行政面積が広く、住民の意見を聞いて町政に反映するためには、12 人が必要であるというのが一点。 二点目が、実際に森町でも任期中の辞任によって欠員が生じた結果 10 名になったことがあり、委員会のうち第一常任委員会と第二常任委員会は人数が半分であるため、本当は 6 人ずつのところ 5 人ずつになってしまい、意見が少なくなって活発な意見が交わされなくなったという経緯があったという点。 三点目が、町村議会の議員定数の平均が 11.8 人であり、約 12 人となっているというデータに基づいている点。 四点目が、類似団体の平均が 14 人ということで、今の森町より 2 人多い点。 参考までに、資料のうち議員定数が 10 人である神戸町については、行政面積が非常に狭い。森町は 133.91 平方 km であるのに対し、神戸町は極めて小さな行政面積であるとの意見も出され、議会としては 12 人を維持するということで結論が出ています。
	会長	議会側とすれば、定数についてもいろんな議論はしたということかと思う。 私も議論をしていたが、森町を見ると、行政区域が非常に広い。133 平方 k m ということで、近隣を見ると、森町というのは行政面積が非常に広い。 もう一つは、皆さんが生活するにあたって、これだけの広い面積の中のうち生活道路、町道が非常に南北に長く通っていて、特に山間部へ行くと、皆さん方のしっかりとした生活道路が欲しいという意味では、地域の声は非常に高い。この道路の整備というのは、やはり仕事に行くために必要なしっかりとした道路でないといけない。要望とすると、山間地からは道路の環境整備といったものが非常に多く聞かれるという中で、やはり奥の地域の議員が減少すると、どうしても町民の声が町政へ

		届かないというような意味で、議員があまり減ると議員の口数が減ると言うことで、地元の要望等々が町に反映されにくいということがある。 平成 16 年のときは 16 人だったのが、合併をせず単独でいくという中で緊縮財政をしないといけないという中で、12 人まで減らしてやってきたというのが現状である。議員が減ると議員の口数が減り、町政に反映されにくい。どうしても地域から議員を 1 人出して、我々町民の声を町に繋げてもらいたい、どぶ板一つでも直してもらいたいという声があるということを町に届けるのが、私は自分が議員としてやってきた中で、議員の仕事だと思いつくづいている。 近隣辺りを見てみると、森町の 12 人は最低水位の定数かなと私は思っているが、いろんなご意見があるということで、ぜひこの際にいろんなご意見を出していただき、方向を定めていただきたい。
	委員	若い意欲ある人たちが高い給料で議員をやっていただくというのは、森町が活性化して良いと思うが、現状からすると、やはり事務局で提案されたくらいで行くしかないかなと思う。 それから議員の定数を減らすという意見は、上げることにに対して住民が納得しやすいのでそういう方法も良いとは思いますが、私は円田の住まいで地区から議員がいなくなってしまったため、いろんな要望とか議員さんと話をする機会はほとんどなくなっている。そういうことを考えると、今現在ではやはり 12 人は欲しいんじゃないかなと。給料を高くして若い人に議員さんをやってもらいたいというのは、確かにそれは良いことだとは思いますが、この審議会においては、私は事務局で提案されたくらいでいくしかないかなと思っている。上げることには賛成ではあるが、この審議会では 12 人でこの給料であげていくのが一番妥当かなと個人的には思っている。
	委員	全体として、報酬を上げることに関しては賛成。基本的に経済状態が上がっている中で、もう 15、6 年変わっていないということ自体が、そこはちょっと一般的ではないかなと思う。そういった世の中の一般的な状況というところには、当然合わせていく必要があるのかなという点で上げていかなければいけないかなと思っている。そこに関しては、やはり町民の納得性というところがどうしても必要になってくるので、どの程度上げていくかというところがポイントになると思う。その中で世の中の他の企業が上がっているから同じようにあげれば良いのかというと、なかなか納得は得られない。我々も賃金を上げてはきたが、やはり何の努力もせずに勝手に上げていっているわけではなくて、生産性を一分一秒でも短くしようとか、事務効率のところにおいても、いろんなところで合理化して効率化できないかということをやっている、どれだけ自分たちのアウトプットの質を落とさずにやっていくかということをやっている、そういうことができていると思っている。 そのため議員さんにおいても、そこら辺について皆様が納得できるようなことであれば、今回上げてもいいねということになると思う。その努力の証というところが議員定数の削減であれば、非常にストレートでわかりやすいというところではあるが、なかなか減らすのも難しいということであれば、こういった形で納得性のある、質を下げずにむしろ上げてやっているということ、僕らで言うと K P I みたいな

		言い方になるが、達成目標としてやってきているのかということをお願いすると思う。 資料のうち、議会側からの改定案では、信頼される、開かれた議会を目指していることをやっていますというようなことが書かれている。この中には、これまでやっていなかった新しい試みとか、合理化のところだとか、デジタルトランスフォーメーションみたいなようなことも入っていると思う。いかに自分たちがただ同じことをやっているわけではなくて、そういった形でいかに自分たちが新しい取組をやっている、質を落とさずむしろ上げてやっていることを町民の皆様に対しても表現できれば、議員定数は削減せずに持っていけるかなど。そこを説明できない場合は、やはり議員定数削減みたいな形にしていくしかないのでは。
	委員	私なりに関係者に聞き取りをしてみた話だと、10人が10人減らせるよという話だった。例えば事務員を1人減らして6人を5人でやってくれとか、生産ラインを10人でやっていたのを8人でやるというようなことは、日常的にあると思う。 この会議とは別の会議では、森町の人口が将来1万人を切ってしまうがどうしたらいいかと、その対策で何とか1万3,000人ぐらいで止めようというような会議をやっている。そんなときに給料を上げようというのは良いが、たとえ1人でも2人でも議員定数を減らすぐらいのことができないんだったら、私は報酬を上げない方が良くと思う。報酬だけ上げるのでは町民が全然納得しないし、私は12人を10人じゃなくて8人、9人ぐらいにして、報酬を30万ぐらいにしたら良いと思っている。
	委員	今回説明いただいた中身に関しては、今までの経緯を含めて、今回については上げることもありかと思う。今、委員が言われたことも踏まえて、一般企業で考えると会社の業績は町の財政になると思うが、業績とそれぞれ個人の成果、能力等によって給料も上がっていくし、本人のやる気やモチベーションにつなげていくというのが基本的な考えであり、今もそれでやっていると思う。今回の話に関しても、議員さんも同じで、議員さんとしての仕事の成果というものもあると思う。その辺も今回の提案に対して、もう少しアピールがあると町民への説明責任にもつながるし、今後の期待にもつながり、今後の議論にもつながると思った。 もう一つは、類似団体との実績の比較ということで、これぐらいが適当ではないかという中身と判断したが、それ以外にいろんな条例とか関係する評議会、団体の審議結果等もあると思う。その中で参考に見てみると、首長との割合も基準の一つという観点もあった。多面評価というわけではないが、もう少しいろいろ見てみるのも一つの手かなと思ったので、議員としての成果の中で、委員が言われた少数精鋭で頑張るというのも一つの方策だとも思う。 あとはやはり町を活性化していく、成長させていくために、どのようなことを持ってやっていくかということも踏まえて、議員さんの思いを含めて協議につなげられれば良いと思う。
	委員	皆さんのお話を伺ったり説明を受けたりして、今委員がおっしゃったこともすごく良く分かる。会社経営をしていると、やっぱり給料を上げるなりにはしっかり原資が確保されていることも必要だし、上がった後にその人たちがどのような働きをし

		て、更に利益を生み出してくれるかということを考える。町の議員さんがこんなに長い間ずっと昇給がなかったので、給料だけでというか、議員報酬だけが目的で議員になっている方はいらっしゃると思う。そこには森町に対する想いとか義務感とか、森町を良くしようという思いでずっとやってきてくれたと思うが、それが今のところお伝えする場がそんなに多くなかったのか、私達が聞き流してしまったのかということもあるが、そこら辺でどれだけ町民みんなに伝わっていて、こういうことをやって来て本当に行政が良くなってきてよかった、私達の声が届いてよかったということが、これから議員報酬がどんどん積み上がることでもっと活性化して、町民が納得するような答えが返ってこれば良いが、特別委員会の協議結果を見ると、こういう理由ですからあげてくださいという理由は書いてあるが、その後の上がったことに関して私達はこんなこともやっていきたいとか、そういうものが何かあると、もっと良いのでは。私は報酬を上げるのは賛成で、会計の中で圧迫しないような形で上げていくというのは、提案をしていただいた金額で妥当と判断したが、議員さんの中からこういう理由で上げてくださいだけじゃなくて、もう少し何かあった方が納得しやすいし、町民の皆さんもわかっていただけたと思う。報酬が上がったら上がったなりの成果を町民が求めると思うので、その辺りのところがちゃんと伝わるといいなと思う。
	委員	議員定数を減らすというところは、私も賛成。先ほどの話だと、町長が243日の稼働日数で、議員が44日にプラス36日で80日稼働していると。それ以外に動いている部分もあると思うが、定数を減らしたらもっと稼働日数とか、極論を言うと243日フル稼働で動き回ることができる。その代わりに報酬を高くして成果を求めるという形の方が、町民の納得が得やすいと思うし、逆に議員になって議員の業務に邁進するという環境で、ダブルワークだと中途半端になるところもあると思うので、議員に集中できる環境を作ってあげて、議員でしっかりがんばってもらって効果も上げてもらう形の方が、より納得感は得やすいと思う。なので、今の12人は削りながら、その分一人当たりの稼働率を高める考え方も良いのかなと、今までの議論を聞いて思った。
	委員	先ほど委員がおっしゃったように、ただ単純に上げるかどうかと言ったら、正直言って私どもが上げましようと言っても、何も自分達の懐が痛むわけじゃないから、上げましようということは案外言いやすい。ただ、住民代表としてこういう役職として出ている以上は、町のためにならないことはできないと思う。それだけに相当慎重に事を運ばないと申し訳ないという気持ちでいる。 ですから委員がおっしゃったように、じゃあ上がったらどういう形で町政に反映してくれますかと、それを期待しているわけです。ですからそれが全くなくて、ただ大幅に上げたよということであつたら良い印象は与えないと思う。私は定数を削減するというか、自分も痛みを少し分かち合う、痛みを伴うような形にして給料を上げるという方が、自分たちも説明しやすいし、私どももいやそうじゃないぞと、これから大変だけでもその分頑張ってくれるから様子見ようということで説明もしやすい。やはり森町の将来を考えた場合に、一番適切な形でいっていただきたいと

		思う。
	会長	平成 16 年のときに合併協議をして単独の道を歩むとなったときに、あのときに 16 人から 12 人に定数を減らした。その中でずっと我々がやってきた中で、あるときに天方地域で議員が誰もいなかったというときがあった。そのときに天方地域の方に、この森町がどのような方向でどのようなことをやっていくかということが、地域の方に分からない、その地域の方が非常に不安を感じるという声があったので、私達を中心となって議会報告会をその地域に出向いて行ってやった経過がある。それを契機として今では議会として議会報告会を各地域で開いて、いろんな問題点を私達に教えてください、要望があったら言ってくださいということをずっとやってきた。それが結構町民の方から、町のいろんなことが分かったとか理解をしていただけたということがある。議会活動が議員活動であり、どのようなことをしているかというのが、私は大きなポイントになると思っている。 今までずっとやってきた中でも、行財政改革課題研究会を発足して、いろんな問題があればそこを議員でいろいろ話し合っ、また議会報告会もしている。今では Y o u T u b e を見れば、議場の様子を全部見ることができる。そのようなことを議会としてもやってくれているということで、議会として出ないといけない活動日数の中に本議会があるけども、それ以外において地域で自分たちがどう議会活動をしているかというのをこの活動日数に反映できれば、議員は確かに一生懸命やってくれているなど、町民の皆さんも思えると思う。議会のそれぞれの議員の活動というものをしっかりやるようにと、この審議会でも意見が出ているので、これはやっぱりつまびらかに皆さんに報告するということも必要じゃないかという意見を、ぜひ議会の方に繋げていただきたいと思います。
	委員	実際のその成果というところが、今回のその報酬をどれくらい上げるかとかいうところに直接関係してくると思うので、今日は多分結論は出ないと思う。 データとしては、そういった議員さんのこれまでのいろんなやってきた活動の成果とか、できたら具体的に何を何回やってきたとか、僕らであればそういうことになってくる。昔は 5 回しかやっていなかったけど、この 10 年間で 10 回になりましたとか、これからは 15 回にしますとか、そういうような何か具体的な結果の指標みたいなものがあるようであれば、今回の報酬引き上げに関して納得いただけるのかどうか。あるいは、それだと納得いかないから、やっぱり議員の数を減らさないといけないねというような議論になっていくのかなと思うので、事務局でこういったデータを整理していただけると議論しやすいと思う。
	委員	森町の議員であれば、地元で出たからどうのこうのという時代ではない。どこの地区から出ているとかは関係ないんだと、町を全部見ているんだというくらいの意気込みがある議員が出てれば良いと思う。地区に議員がいらないというのが理由で減らせないというのは、改めていただいて前向きに考えていただきたい。
	委員	今後の話になってしまうが、報酬が上がったとしても、今皆さんから出ていた意見において議員さんの成果というところがあって、80 日という稼働日数は見えてきたが、それ以外の日数が成果につながるポイントの一つだと思う。一般の企業でい

		くと管理者が居て監査役が居る形で見えているが、その辺りにおいて議員さんの活動が住民にも共有していけると、検討材料の一つになると思う。
	委員	論点で気になっているのが、特別委員会報告書の中で、現在の収入では生活がなりたたなくて立候補もできない状況というところから、なり手不足というよりは、議員さんそのものの生活というところでこの給料だけでは生活していけないというところが、最初の出だしにもなっているように見える。ダブルワークが基本と言いつつ、こういうご意見が出ているということは、やはり議員さんとしても、やっぱり議員報酬で生活をしっかりしていけないといけないという状況にあるのかなと。これからのなり手ということを考えたときに、ダブルワークではなくて専門職ではないけれども、議員報酬でしっかり生活をしていくということを保障していかなきゃいけないのかどうかというところが、論点としてはもう一点あるのかなと思った。 今日の議論については、基本的にはダブルワーク前提で 80 日稼働の成果というところになっているが、それをこれからのなり手の方にもそういった形で求めていくのか。あるいはもっと専門的にバリバリ働いてもらって、250 日ちゃんとフルタイムで働いてもらって成果を出してもらって、そこで生活してもらおう。議員報酬だけで生活してもらわなきゃいけないから、だからあげなきゃいけないよねという論点もある。
	会長	実際に今の議員の中で、ダブルワークをしている方は何人ぐらいいるか。
議会事務局長		ダブルワークの程度は別として、12 人中 8 人が別の職業を持って議員活動をされています。
	委員	今後のなり手というものに対して、どういうところを期待されるのか。仕事をしながら議員をやっていくのか、冒頭でも出たように名誉職という部分もあって、そういった森町のことを大事に考えて、いくら低くても僕はやっていくんだという人になってもらうことを前提に考えるのか。それとも、ある意味ビジネス的にやっていくのを認めるというわけではないけれども、そういう部分はあってもいいのでそれでもなり手を増やしていけないといけないということなのか。どの辺りを目指していくのかというところ。
	会長	今回、議会から出てきたのは平成 17 年に改定があったものが、それからもう 20 年近く経っている。あのときは給料が削減されて、その報酬の体系でやってきたと。その一方で、物価は上がってきている。それから今、賃上げが国の政策にもあるという中で、今この議員の報酬では次の議員が育ってこないという中で、今回は議員報酬について、平成 17 年に対して今回こうだからという意見で上がってきている。そこら辺で、今回皆さんがどのような判断をされるかというところ。 しかし、これから先については、やっぱり町のことを思えば、しっかりとした議員が出てきて、町のことに一生懸命働いてもらおう。また、若い方をとという中で、議員定数も含めてこれから考えてもらいたいという案が今出てきているが、今回出てきている諮問については、今現状の報酬をとということで出てきている。この特別委員会が開かれて、定数については据え置きで、今回報酬についてということで議論を

		されて出しているため、こちら辺を皆さん方で今後どのように判断をしていくかというところ。
	委員	平成 17 年から見る話と今後のなり手という話は、レベルが違うかなと感じる。
	会長	実際はこれからのことについてしっかり考えていく必要があるが、今まで 20 年間据え置きされてきたという中で、報酬等を考えていかないと次の世代は育たないというようなことも、是非検討をしていただいた方が良いと思う。
	委員	議論の中で両方を満足させるということにするのか、切り分けて考えるのかというのは、決めておかないと議論の方向性が定まらないかもしれない。
	会長	今日だけでは方向性が決まらないと思うので、今言われたように方向性として二つの考え方を持って進めていくということで、次回も検討していく。
事務局		本日の議論の内容で、質問等ありましたら発言をお願いします。
	委員	一点確認で、議員定数削減の話と報酬の話は、同じ議論ができるのか。
事務局		基本的にこの審議会での議論は、現在の報酬をどうするかであります。付帯意見として議員定数を削減することを検討してほしいという意見を付けることは可能です。
	委員	それが決定しないと金額が決まらないということになると、議論が終わらないと思う。
事務局		この審議会として報酬を上げることが適切でないという結論もあり得ます。上げることは賛成だが、上げたあとに定数については必ず検討するようにという意見を付けた答申をいただいた町長が、議会に対して条例で報酬を上げるのを議会に上程することになります。
	委員	あくまでこの会としての提案を町長にする内容を決めるということで、それが必ず通るわけではないという認識で良いか。
事務局		報酬についてであるため、町の条例の改正が必要になります。条例を町として改正案を議会に提出して、議会を通らないと報酬は上がりません。最終的には議会の議決で決まるということです。
	委員	定数削減が条件としたら、給料を上げますよと。ただ、定数の削減もご検討くださいと出して、議員の皆さんで無理だと言うことになったら、何なんだということになる。どっちかと言ったら議員定数の削減をいの一番に持ってきてもらって、それが可能でしたら上げましょうみたいなことはできないのか。
事務局		そうであるならば、審議会として今回の報酬引き上げについては適切ではないという結論を出していただくのが確実だと思います。審議の中で議員定数削減が必要と考えたという結論を踏まえた答申が町長に提出されれば、それは町とすると条例をあげるわけにはいかないものですから、条例をあげないということになりますし、審議会の中で検討した結果、定数の減がない限りは報酬を上げるべきではないという回答をいただいたから、議会で検討してくださいということになります。必ず定数が減らない限り報酬を上げないということであれば、今のようになります。ただ、審議会の総意によって答申があるものですから、そこは委員 8 人皆様の中で結論を出していただくことになります。

	委員	資料の中で活動日数が何日と出ているが、その活動日数を伸ばすよう要請するといった条件付きの答申をすることはできるのか。それは今説明があった内容と同様に、この日数だと私たちは認められないという形になるのか。
議会事務局長		まず定数は別に考えたいという議会の意見は、この定数等調査特別委員会という委員会を開いていく中で、定数については報酬と一緒に考えるのではなくて、別に考えましょうということで、既に 12 名という結論が出ています。先に考えましょうということではなくて、この段階でもう議員さんの中では 12 名と結論が出ていますので、定数についてこれから考えたいといったような形ではないため、改めて確認させていただきます。 あと日数についてですが、これは議員の活動日数における調査をしています。議会活動と議員活動という区分があり、こちらで把握できる議会活動については、議会事務局で日数をカウントしていますが、議員活動については、やはり個人で違うものですから、議員皆さんに調査票を渡して、これは全国町村議長会というところから出ている計算方法を用いて積算をしています。これは 1 日を 8 時間としてカウントして合計した時間を 8 で割っていますので、端的な数字となっているため、細かいところまでの数字は出ておりません。以上の点をご承知おきいただければと思います。
	委員	町民の代表として選挙を戦って議員になって、それで町のために一年間いろいろ活動をしてくださっている。むしろそういう意味では、すごく敬意を表している。ですからもう十分にその働きとか、いろいろなご苦勞に添えるような報酬を出したいなど。先ほどからあるように、若い方がどんどん出馬していただけるような報酬になれば、もっといいなど。ただ、何かしらの痛みを伴う改革をしていただければなどということで、議員定数の削減をお願いしたい。こんな時代だし、こんな田舎で皆さんそれなりにカツカツの生活をしている中で、大幅に報酬を上げる以上は、ちょっと痛みを伴う何か理由付けが欲しいなどということで、ぜひそうなればいいと思う。
事務局		それでは、長時間にわたり熱心なご協議をありがとうございました。 以上をもちまして、第一回森町特別職報酬等審議会を閉会させていただきます。本日はありがとうございました。